

るり訪問看護ステーション
小林ひとみ
代表



0463-73-8884

rurihoumon.studio.site

神奈川県伊勢原市東大竹
945-3A

ビジョン

「ともに生きる」を大切に、当訪問看護ステーションは精神障がいの方へ訪問を行なっています。心に寄り添いながら安心できる日常を支え、あなたらしい暮らしを一緒に育んでいきます。

るり訪問看護ステーションの小林ひとみ代表は、「困っている人の役に立ちたい」という想いを原点に看護の道へ進み、約23年間にわたり大学病院のオペ室で経験を積んできました。その後、自分らしく働き、人に寄り添う看護を実現したいという決意から、新たな一歩として訪問看護ステーションを設立。2024年2月、伊勢原市で開業したるり訪問看護ステーションでは、精神疾患訪問看護・障がい者訪問看護を軸に、伊勢原市・平塚市・秦野市の地域で、一人ひとりの暮らしに寄り添う支援を続けています。小林ひとみ代表の歩みと、地域で“共に生きる”訪問看護への想いを伺いました(2026年4月取材)。

困っている人の役に立ちたい想いから、精神科訪問看護へつながる看護師の原点

看護師を目指したきっかけを教えてください。

私は家族性の貧血があり、高校生の頃から通院を続けていたのですが、当時通っていたクリニックで働く看護師の方が、点滴対応や診療補助だけでなく調剤にも関わっている姿を見て、「医療職として人を支える仕事」に強く惹かれたことが原点でした。

一時期は薬剤師を目指すことも考えたものの、自分にとって進学に必要な化学が大きな壁であると感じて進路を見つめ直す中で、「人と関わることが好き」という気持ちや、「美容師の母、歯科技工士の父のように一生続けられる職を目指したい」という想いが、自分の中にある本質的な価値観だと気づくようになりました。

さらに、3歳年上の姉の影響で障がいのある方のボランティア活動に参加したり、NPO法人の研修に足を運んだりする経験を重ねる中で、「困っている人の役に立ちたい」という想いがより明確になり、介護福祉士にも関心を持ちましたが、最終的には専門性と自立性の両方を兼ね備えた職業として看護師という道を選びました。

高校1年生の時点で進路を固めてからは迷うことなく、奨学金制度が充実しており自宅から通学可能であった私立大学の看護学科へ進学することを決意しました。

学生時代に思い出深いエピソードはありますか？

実習はどの領域も大変でしたが、実は学生の頃から精神科に進みたいという気持ちは一貫して持っていました。



当時、プライベートで悩みを抱えており、その葛藤や感情を実習記録に率直に書いて提出したところ、指導者の方から「ここまで自分の内面に向き合い、言語化できる人は精神科に向いている」「卒業後にこの病院で働かないか」と声をかけていただいたのです。

当時は大学から奨学金を受けていた関係で、卒業後は附属病院への就職が決まっていたためお断りせざるを得ませんでした。この言葉は強く心に残り、「いつか必ず精神科に関わりたい」という想いとして長く持ち続けることになりました。

附属病院にも精神科はありましたが、当時は開放病棟が中心であったため、より深く患者さんと関わる環境で精神看護に携わりたいという気持ちから配属を希望しませんでした。

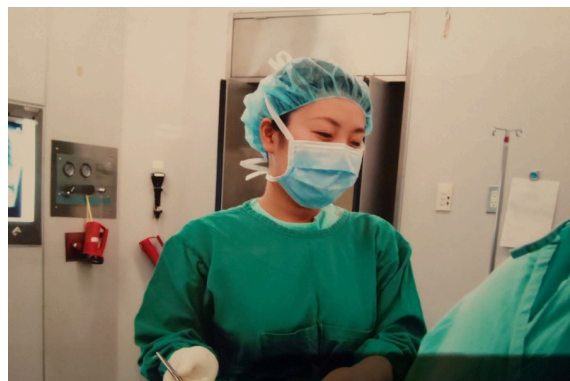
大学卒業後はどのようなキャリアを歩まれたのでしょうか？

看護師として働くにあたり、「夜勤のない働き方をしたい」という思いから手術室（オペ室）への配属を希望しましたが、実際には夜勤の代わりに当直勤務があり、結果として2日間自宅に帰れないことも珍しくないなど、想像以上に厳しい環境でした。

当直中は仮眠室で先輩と隣り合わせに休むような状況もあり、精神的・身体的な負担の大きさを実感する日々でしたが、その中でも手術看護の専門性を高めながら経験を積み重ねていきました。

また、外来や病棟のサポートに入る機会もあり、分院を含めさまざまな現場を経験する中で、看護師としての基礎的な対応力や判断力を養うことができたと感じています。

結果として、約23年間にわたり手術室を中心に勤務を続ける中で、どのような状況でも冷静に対応する力や、チーム医療の中で役割を果たす重要性を学び、現在の精神疾患訪問看護や障がい者訪問看護の現場にもつながる土台を築くことができました。



オペ室での23年間を経て見つけた、精神科訪問看護・障がい者訪問看護という新たな道

オペ室勤務から訪問看護ステーションの設立に至ったきっかけは何だったのでしょうか？

これまで子どもが大きくなるまでは大学病院で続けてほしいという夫の意向を汲んできましたが、子どもの成長をきっかけに、自分の生き方を見つめ直すようになり、自分のやりたいことを後回しにしていることへの違和感が大きくなっていきました。

安定した環境で働き続ける道もありましたが、「最期まで自分らしく働きたい」という理想は、このままでは実現できないと感じるようになってきました...



続きはQRコードからアクセスしてください → → →

